

中 学 校	国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「A問題」「B問題」とも、全国平均と同程度の結果を示しており、総合的には基礎的内容、応用的内容とも、ある程度身に付いていると考えられます。 ○領域別に見ると、漢字の読み書きや語彙等の「言語事項」が全国平均を上回っており、指導の結果が見られます。しかし、「書くこと」「読むこと」については課題も見られ、指導の充実が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書活動の充実、新聞の有効活用等、文章に慣れ親しみ、読む力を高める指導法の工夫 ○様々な資料等から必要な情報を取り出し、自分の考えを交え、再構成して文を作成するなどの「書く」活動の他教科等への波及と充実 ○筆者の意図や作品の主題等を的確に読み取りそれに対する自分なりの考えを表現していく活動の充実 ○説明的文章における中心部分と付加的部分、事実と意見の違いを明確に読み取らせる指導法の工夫
	数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○「A問題」「B問題」とも、全国平均を下回りました。特に「A問題」の差が大きく、基礎的内容の定着のための取組が必要です。 ○領域別には、特に「数量関係」に関する指導を充実させる必要があります。また、基本的な計算技能を高めることも必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算技能等の基礎的な学力の定着をめざした日常的・継続的な取組の充実と家庭学習課題の工夫 ○習熟度に応じて異なった難易度の課題を与える等の指導法の改善 ○1時間の中で学習したことを練習させ定着させる時間の確実な確保 ○課題に対する様々な解決方法を引き出したり例示したりする指導過程の充実 ○解決に至るまでの自分の考えを書いたり（ノート指導を含む）、発表し相互に意見交換したりする活動の充実 ○比例や反比例等、関数に関する知識や技能の定着を図るための指導法の工夫 ○他教科における数学的思考を伴う活動の工夫（理科における実験データの分析等）

【生活習慣や学習環境等に関する調査結果（概要）】

小・中学校とも「食事のとり方」「起床・就寝時刻」「家の手伝い」「家庭での学習時間」等、ほとんどの質問項目で全国平均を上回るよい状況でしたが、以下のように課題といえる内容もありました。

- 小学生では、4割の児童が平日3時間以上テレビを見ているようです。全国平均よりは少ないですが、テレビとの付き合い方を考えてみる必要があります。
- 多くの児童・生徒は規則正しい家庭生活を送れているようですが、中には極端に寝る時間が遅かったり、インターネットやゲームを長時間している児童もいるようです。
- 中学生では、国語と数学を「好き」と答えた生徒、「授業内容がよく分かる」と答えた生徒が全国平均をやや下回っています。学習そのものに対する興味や関心を高めるとともに、個々の実態に応じた指導を充実させていく必要があります。
- 全国的に、家庭学習で「予習」をしている割合が低いという結果が出ています。特に中学生においては、予習にも力を入れていく必要があります。

本調査結果は、本町全体の概要であり、各学校ごとにそれぞれ課題は異なります。今後、各学校が、各家庭や地域との連携も含めて児童生徒の実態に沿った指導を行っていきます。